

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人京都外国語大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
文化・教養専門課程	英米語学科	夜・通信	9 単位	7 単位	
	中国語学科	夜・通信	9 単位	7 単位	
	韓国・朝鮮語学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
	東南アジア言語学科	夜・通信	9 単位	7 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校のホームページに公表している。 https://kccfl.kufs.ac.jp/library/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人京都外国語大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人のホームページに公表している。 https://www.kufs.ac.jp/foundation/pdf/officer.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社顧問（前職）	2024年4月 1日～2027 年度定時評 議員会終結 の時	国際交流
非常勤	地方自治体首長（前職）	2024年4月 1日～2027 年度定時評 議員会終結 の時	渉外
非常勤	独立行政法人審査役（現 職）	2024年4月 4日～2027 年度定時評 議員会終結 の時	国際交流
（備考）			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人京都外国語大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各授業担当教員へのシラバス作成依頼時(毎年2月)に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を3月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で4月上旬にポータルサイトに公開している。	
授業計画書の公表方法	本校のホームページに公表している。 https://kccfl.kufs.ac.jp/library/ (他、ポータルサイトでも公表)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスで記載した評価方法に基づいて厳正かつ公平に評価するよう、授業科目担当者に年度初めに実施する全体講師会において「評価の方法」「成績評価の基準及び評価点など」について記した「出講案内」を配布して周知徹底している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。 A⁺ (100-90) : 4ポイント A (89-80) : 3ポイント B (79-70) : 2ポイント C (69-60) : 1ポイント D (59-0) : 0ポイント F : 失格 $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ また、学内においては、GPAを習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生に配布する「学生便覧」及び授業科目担当者に配布する「出講案内」で公表。また、HP上の「情報ライブラリー」の「自己点検評価報告書」に公表している。 https://kccfl.kufs.ac.jp/library/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定方針は、ディプロマポリシーとして策定している。 毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。卒業するためには、各群(専攻語学群・専攻教養群・一般教養科目群)に分かれているが、それぞれ所定の単位数を取得し、総計62単位以上で卒業、1年次の必須科目のうち不合格科目が4科目以内であれば進級できる。所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生に配布する「学生便覧」及び授業科目担当者に配布する「出講案内」で公表。またHP上の「情報ライブラリー」の「自己点検評価報告書」に公表している。 https://kccfl.kufs.ac.jp/library/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	京都外国語専門学校
設置者名	学校法人京都外国語大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kufs.ac.jp/foundation/reports.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kufs.ac.jp/foundation/reports.html
財産目録	https://www.kufs.ac.jp/foundation/reports.html
事業報告書	https://www.kufs.ac.jp/foundation/reports.html
監事による監査報告（書）	https://www.kufs.ac.jp/foundation/reports.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程	英米語学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	62 単位	30 単位以上	94 単位以上				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160 人		59 人	0 人	4 人	19 人	23 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校の英米語学科は2年間の学習課程をカリキュラムとして編成し、1年次2年次の学習内容に科目としてバランスよく配分している。各科目の授業方針や内容、年間の授業計画は各授業担当教員が、年度初めにシラバスとして作成して、4月上旬にポータルサイトに公開している。
成績評価の基準・方法
（概要） 2019年度より成績評価においてGPA制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。 A⁺（100-90）：4ポイント A（89-80）：3ポイント B（79-70）：2ポイント C（69-60）：1ポイント D（59-0）：0ポイント F：失格 $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ また、学内においては、GPAを習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。 所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。
学修支援等
(概要) 修学アドバイザー制度を設け、学生の学習目標および到達度を、担当講師が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30 人 (100%)	16 人 (53%)	8 人 (27%)	6 人 (20%)
(主な就職、業界等) 有馬温泉銀水荘兆楽、株式会社京都ホテル、東海旅客鉄道株式会社、株式会社日本トラフィックサービスなど			
(就職指導内容) 語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために1年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校の枠を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) TOEIC600点以上取得者 5名（2年 5名）			
(備考)（任意記載事項） 主な編入先：京都外国語大学、近畿大学、愛知大学、関西外国語大学、龍谷大学など			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76 人	8 人	10.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更(就職)、進路変更（進学）、成績不良など。		
(中退防止・中退者支援のための取組) カウンセリングルームを設置し、専門のカウンセラー（臨床心理士）が毎週月曜日来校。学生の相談（自分自身の事、対人関係のこと、学業や将来のこと、心身不調のこと など）に応じている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	中国語学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	30 単位以上	94 単位以上			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		5 人	0 人	1 人	19 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各授業担当教員へのシラバス作成依頼時（毎年 2 月）に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を 3 月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で 4 月上旬にポータルサイトに公開している。
成績評価の基準・方法
（概要） 2019 年度より成績評価において GPA 制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。 A⁺（100-90）：4 ポイント A（89-80）：3 ポイント B（79-70）：2 ポイント C（69-60）：1 ポイント D（59-0）：0 ポイント F：失格 $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ また、学内においては、GPA を習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。 所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。
学修支援等
（概要） 修学アドバイザー制度を設け、学生の学習目標および到達度を、担当講師が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	1 人 (17%)	4 人 (66%)	1 人 (17%)
（主な就職、業界等） 京都三菱自動車販売、株式会社 NAA リテイリングなど			
（就職指導内容） 語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために 1 年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1 年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12 月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校の枠を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） HSK 受験準備中			
（備考）（任意記載事項） 進学先：青島滨海学院			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） 進路変更(就職)、進路変更（進学）、成績不良など。		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルームを設置し、専門のカウンセラー（臨床心理士）が毎週月曜日来校。学生の相談（自分自身の事、対人関係のこと、学業や将来のこと、心身不調のこと など）に応じている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	韓国・朝鮮語学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	30 単位以上	94 単位以上			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		36 人	0 人	2 人	20 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各授業担当教員へのシラバス作成依頼時（毎年 2 月）に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を 3 月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で 4 月上旬にポータルサイトに公開している。
成績評価の基準・方法
（概要） 2019 年度より成績評価において GPA 制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。 A⁺（100-90）：4 ポイント A（89-80）：3 ポイント B（79-70）：2 ポイント C（69-60）：1 ポイント D（59-0）：0 ポイント F：失格 $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ また、学内においては、GPA を習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。 所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。
学修支援等
（概要） 修学アドバイザー制度を設け、学生の学習目標および到達度を、担当講師が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27 人 (100%)	5 人 (19%)	12 人 (44%)	10 人 (37%)
（主な就職、業界等） ザ・リッツ・カールトン京都、エースホテル京都、ホテルオークラ京都、株式会社日本トラフィックサービスなど			
（就職指導内容） 語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために 1 年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1 年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12 月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校の枠を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOPIK6 級 1 名、TOPIK5 級 3 名、TOPIK4 級 3 名、TOPIK3 級 1 名			
（備考）（任意記載事項） 進学先：韓国外国語大学、国立釜慶大学、培材大学など			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	7 人	12.5%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルームを設置し、専門のカウンセラー（臨床心理士）が毎週月曜日来校。学生の相談（自分自身の事、対人関係のこと、学業や将来のこと、心身不調のこと など）に応じている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	東南アジア言語学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	30 単位以上	94 単位以上			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		6 人	0 人	2 人	20 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各授業担当教員へのシラバス作成依頼時（毎年 2 月）に、詳細なマニュアルを配布し、シラバス作成について周知徹底している。また、常勤講師がシラバスの内容を 3 月中旬以降、確認・点検し、マニュアル通りに作成されていない場合は、作成し直した上で 4 月上旬にポータルサイトに公開している。
成績評価の基準・方法
（概要） 2019 年度より成績評価において GPA 制度を導入し成績評価を行っている。算出方法は以下の通り。 A⁺（100-90）：4 ポイント A（89-80）：3 ポイント B（79-70）：2 ポイント C（69-60）：1 ポイント D（59-0）：0 ポイント F：失格 $\frac{(A^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (A \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{総登録単位数}}$ また、学内においては、GPA を習熟度別クラス分けが必要な科目においてこれらを活用している。さらに、大学編入の指定校推薦者選考時などにも活用している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定方針は、学生に配布する学生便覧及び各授業担当教員に配布する出講案内で公表している。また、毎年年度末に行う卒業判定会議において、全学生の単位取得状況を常勤講師が確認し、卒業・進級の判定を行っている。 所定の単位数を取得できない学生については卒業・進級ができず、指導方法を検討し、担当教員が指導を行っている。
学修支援等
（概要） 修学アドバイザー制度を設け、学生の学習目標および到達度を、担当講師が確認し、必要に応じて面談・指導を行う等、学習意欲の把握に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2 人 (100%)	2 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 語学の運用能力を高めることが、本人の付加価値をつけるという考えのもとに、修得している語学を生かした就職活動を意識している。そのために 1 年次春学期より、キャリアデザイン論の授業を通して、就職に対する考え方や進め方などを指導し、1 年次秋学期からは、面接対策講座などの授業を通して面接対策を実施している。また、12 月以降、京都外国語大学で実施される学内企業理解説明会にも参加し、専門学校を超えた幅広い業種や職種から仕事選びをするよう指導している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 特になし			
（備考）（任意記載事項） 進学先：天理大学、追手門学院大学			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルームを設置し、専門のカウンセラー（臨床心理士）が毎週月曜日来校。学生の相談（自分自身の事、対人関係のこと、学業や将来のこと、心身不調のこと など）に応じている。		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
英米語	150,000 円	950,000 円	137,520 円	
中国語	150,000 円	950,000 円	125,000 円	
韓国・朝鮮	150,000 円	950,000 円	125,000 円	
東南アジア	150,000 円	950,000 円	125,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
学校法人京都外国語大学の奨学金として、森田基金奨学金(給費)がある。				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校ホームページの情報公開ページ (https://kccfl.kufs.ac.jp/library/) に公表		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
本校が行った自己点検評価結果について、学校に関係の深い方たち(関係者として、「関連業界関係者」「卒業生」「教育に知見を有する者」「その他校長が必要と認める者」の区分から各1名を選出)で構成した学校関係者評価委員会を2019年度に設置し、当該専門分野における実務教育に関する知見を生かし、「学校経営の改革方針が適切か」「自己評価が適切に行われているか」「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方針が適切か」などについて評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善が図れているか、改善方策や改善時期等について適切に実行されたかを継続的にチェックできる体制を整えた。 なお、評価を踏まえた改善方策については、校長を最高責任者として、教育に関することは副校長、施設設備することは事務長がそれぞれを統括して、早急に改善できるように、関係教職員と改善策・対応策を検討して、実施時期を設定し、実施する。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
キャリアコンサルタント	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	取引先代表
塾経営者	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	関連業界関係者
株式会社代表取締役	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	就職先企業代表
私立高等学校講師	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	教育に知見を有する者
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校ホームページの情報公開ページ (https://kccfl.kufs.ac.jp/library/) に公表		
(備考)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://kccfl.kufs.ac.jp/
--